

第3学年国語科学習指導案

日時 平成18年10月13日(金) 5校時
児童 男子9名 女子6名 計15名
指導者 種市友美

1 単元名 二 大事なことをたしかめよう

2 教材名 すがたをかえる大豆(国分 牧衛) 食べ物がかせになろう

3 単元について

(1) 指導事項について

本単元の主たる指導事項は、「段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解する。」(読イ)、「書こうとすることの中心を明確にしなが、段落と段落の続き方に注意して書く。」(書工)である。これらの力を育てるためには、「文章の中心となる語や文をとらえること」「段落ごとの内容をまとめたりつなげたり比べたりしながら読むこと」「広い範囲から題材を見つけること」「書こうとする題材について必要な事柄と不必要な事柄を分けること」などの力を育てる必要がある。本単元では、「中心となる語や文、段落相互の関係に注意して文章を読み、身近な食べ物について調べ、分かりやすくまとめて友達と交流する」ことを目標とする。

(2) 教材について

本単元は、「すがたをかえる大豆」という教材文と「食べ物がかせになろう」という教材文との複合単元である。「すがたをかえる大豆」で、段落や中心となる語や文などに注意して文章を読む。そして、「食べ物がかせになろう」で、自分で調べたいものを選んでそれに関する情報を集めて文章にまとめる活動を行う。

本教材「すがたをかえる大豆」は、大豆やその加工食品について書かれた説明的文章である。初めに説明する対象物を提示し、それについての説明を施すという明確な段落構成になっている。また、「いちばん分かりやすいのは」「次に」「また」「さらに」「このほかに」などの接続する語句の働きもあり、文章のまとめ方や段落の関係がとらえやすくなっている。さらに、大豆の加工品は、見ただけでは大豆からできていると思われないものも多く、児童は興味をもって学習を進めることができるだろう。そして「食べ物がかせになろう」では、読みの学習を通して身につけた力をもとに、大豆以外の身近な食べ物について自分で調べ、集めた情報を文章にまとめる。

以上のことから、本教材は、段落相互の関係を考えながら文章を読み取ることで、自分の興味・関心をもったことについてわかりやすくまとめて書く学習に適した教材である。

(3) 児童について

児童は、これまで、「ありの行列」の学習で、内容がひとまとまりになっているものを段落とよぶことを学んだ。さらに、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え文章を正しく読むことを学習した。また、「しょうたいじょうを作ろう」では、来て欲しい人に大事な用件や気持ちが伝わるように書くことを学んだ。また、「おもしろいもの、見つけた」では、知らせたい相手や内容に応じて自分の考えが明確になるように段落相互の関係を考え書くことを学習した。さらに、「三年とうげ」では、自分の読み取ったおもしろさを伝える本の帯作りを行い、必要な情報を一つ選択して文に表す学習を行った。

児童は、全員で読み進めると段落の大体の内容は理解できる。しかし、段落相互の関係を読み取ることは困難である。また、大事な語や文、中心になる文を見つける力は個人差が大きい。書くことについては、伝えたいことを順序立てて書くことはできるが、まとまりを意識して書くことのできる児童は少ない。また、思いはあるが書き出すまでに時間がかかる児童もいる。読書を好きな児童が多く、興味をもったことについて進んで調べる児童も多いので、教材文を読んで感じた驚きや不思議さを大切に、書く活動へとつなげていきたい。

(4) 指導にあたって

本単元の指導にあたって、以下に挙げることに留意しながら進めていきたい。

身近な食べ物について「食べ物がかせ」になり、調べたことをクラスのみならずと交流し合うという見通しをもたせ、学習への意欲を高める。

大豆をおいしく食べる工夫について表にまとめて整理することで、大豆がさまざまに姿を変えていくことをと

らえることができるようにする。

教材文を読み進める際、段落を意識させながら、中心となる語や文をとらえさせる。そして段落相互の関係をとらえることができるようにする。また、「はじめ」「中」「おわり」の文章全体の組み立てをとらえ、それぞれの役割を理解することができるようにする。

「すがた」と「工夫」と「手の加え方」を讀みの視点として意識させ、それを自分で書く際にも生かせるようにする。

自分の選んだ食べ物について情報カードを書かせ、内容をまとめてから文章を書けるようにする。

書いた文章を読み合い、感想を交流することで友達の文章の良さに気付くことができるようにする。

4 単元目標

【国語への関心・意欲・態度】

大豆や身近な食べ物に興味をもち、食べ物について書かれた読み物を進んで読もうとする。

【書く能力】

身近な食べ物について調べたことを、段落に分けて文章にまとめることができる。(書工)

【読む能力】

中心となる語や文をとらえて、段落と段落のつながりを考えながら、大豆が姿をかえることについて正しく読み取ることができる。(読イ)

【言語についての知識・理解・技能】

語句の性質や役割を理解し、読んだり書いたりすることができる。(言工(ア))

5 指導計画と評価規準(17時間)

次	時	学習内容	評価規準	リンク
第一 次	1	・題名をもとに、大豆の加工食品について知っていることを発表する。 ・全文を読み、感想を交流しあう。	【関】大豆をおいしく食べる工夫に関心をもち、感想を発表しようとしている。	・身近な食べ物である大豆への興味をもたせ、学習への意欲を高める。
	2	・漢字や語句の確認をする。	【言】新出漢字、難語句を理解している。	
第二 次	3	・「食べ物はかせ」になるための全体計画を立てる。 ・教材文の全文を読み、どんな加工食品が取り上げられているか確認する。	【関】身の回りの食べ物に関する文章を書くことに興味をもっている。 【読】大豆の加工食品を見つけている。	・「すがたをかえる大豆」ですがたとおいしく食べる工夫を読み取り「食べ物はかせになろう」で身近な食べ物について文章に表すことを知らせ学習意欲を喚起する。
	4	・第一、第二段落の内容を読み取り、「はじめ」の内容を理解する。	【読】中心となる語や文に着目し、話題と大豆の説明を読み取っている。	・段落ごとに大豆の「すがた」「工夫」「手の加え方」を読み取らせ、それらが必ず文に書かれていることを理解させる。
	5	・第三、第四、第五段落の内容を読み取り、大豆の「すがた」「工夫」「手の加え方」を理解する。	【読】中心となる語や文に着目し、大豆の「すがた」「工夫」「手の加え方」を読み取っている。	・接続する語句の働きを理解させ、文章を書くときに生かせるようにする。
	6	・第六、第七段落の内容を読み取り、大豆の「すがた」「工夫」「手の加え方」を理解する。	【読】中心となる語や文に着目し、大豆の「すがた」「工夫」「手の加え方」を読み取っている。	

	7	<ul style="list-style-type: none"> ・第八、第九段落から筆者の考えを読み取る。 ・「はじめ」「中」「おわり」という、文章全体の構成をとらえる。 	<p>【読】筆者の伝えたいことを読み取っている。</p> <p>【言】接続する語の働きを考えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章全体の構成をとらえさせ、文章を書くときの参考にさせる。
第三次	8	<ul style="list-style-type: none"> ・「食べ物はかせになるう」を読み、「食べ物はかせ」の本作りの計画を立てる。調べたい食べ物や調べたいことを決める。 	<p>【関】姿をかえる身近な食べ物について本で調べようとしている。</p> <p>【書】調べたい食べ物と、調べたいことがらを決めることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「すがたをかえる大豆」の学習で学んだ、文章の書き方を想起させ、書く活動への見通しをもたせる。
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の作例を参考に、書く文章のイメージをもつ。 	<p>【書】作例を参考に「すがた」「おいしく食べる工夫」の、文章への書き表し方が分かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作例を参考に、「すがた」「手の加え方」を書くこと、接続する語句を使うと分かりやすい文章になることを押さえさせる。
	10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料を読んで情報を集める。 ・調べて分かったことを情報カードに書く。 	<p>【書】図書資料を読み、本作りに必要な情報を収集し、情報カードに書いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報カードのモデル文を提示し、「すがた」「手の加え方」の情報を中心に集められるようにさせる。
	13	<ul style="list-style-type: none"> ・情報カードを整理する。 	<p>【書】書きたい順番を考えながら情報カードを整理している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書きたい順番を考えさせるために、教科書の作例を想起させる。
	14	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」の部分を書く。 	<p>【書】書き出しを工夫して文章の「はじめ」の部分を書いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「すがたをかえる大豆」や教科書の作例を参考に、段落相互の関係を考えさせながら文章を書かせる。
	15	<ul style="list-style-type: none"> ・情報カードのまとまりをもとに「中」の部分を書く。(本時) 	<p>【書】伝えたいことが分かるように、まとまりを考えて、文章の「中」の部分を書いている。</p>	
	16	<ul style="list-style-type: none"> ・情報カードのまとまりをもとに、「おわり」の部分を書く。 ・文章を清書する。 	<p>【書】自分の考えを入れて文章の「おわり」の部分を書いている。</p>	
	17	<ul style="list-style-type: none"> ・「食べ物はかせ」交流会をする。 	<p>【関】さまざまな食べ物のおいしく食べられる工夫について関心をもち、友だちの作った本を読んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた文章を読みあい、さまざまな食べ物のおいしく食べられる工夫について交流しあい、それぞれの文章の良い点を考えさせる。

6 本時の指導

(1) 指導の構想

本時の学習では、自分が収集した情報について文章に書く。段落と段落の続き方を意識させるため、「まず」「次に」といった接続する語句を使って書くよう指導する。また、教材文を参考にして「中」の部分を書くため、読みの振り返りができるような掲示を工夫しておく。さらに、児童が意見を交流できるよう、ペア学習の場面を作る。

(2) 目標

段落と段落の続き方を考えながら、自分の調べた食べ物について「中」の部分を書くことができる。

(3) 展開

段階	学習活動	教師の支援と働きかけ	評価(方法)
つかむ 3分	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 読む人に分かりやすいように、調べたことを文章にまとめよう。	・「はじめ」の部分を書いたことを想起させる。 ・「中」の部分を書くことを確認する。	
ふかめる 3.5分	3 文章の書き方を確認する。 4 自分の選んだ食べ物について、文章にまとめる。 【一人学び】 5 書いたものを読みあう。 【ペア学習】 6 発表する。 【学び合い】	・「すがたをかえる大豆」の接続する語句の使い方を確認させる。 ・効果的に接続する語句を使うことで、読み手が段落相互の関係を理解しやすくなることを考えさせる。 ・モデル文を提示し、「すがた」「工夫」「手の加え方」を意識させる。 ・情報カードをもとに文章を書かせる。 ・作業が進まない児童には個別に支援する。 ・隣同士で交換して、文字の間違いないか、工夫して書けているか読み合わせる。 ・何人かに書いたものを発表させ、いいところを見つけ合う。	読む人に分かりやすい書き方とはどんなものか気付くことができたか。(発言・挙手) 段落と段落の続き方を考えながら文章にまとめることができたか。(ワークシート)
まとめる 7分	7 本時の学習を振り返る。 8 次時の学習内容を確認する。	・課題にそって本時の学習を振り返り、自己評価させる。 ・「おわり」の部分を書き、文章を清書することを確認する。	段落と段落の続き方を工夫して文章に書くことができたか。(ワークシート)

(4) 具体の評価規準

評価規準	十分満足できる児童の姿の例	努力を要する児童への手立て
段落と段落の続き方を考えて、自分の調べた食べ物について「中」の部分の文章を書いている。	段落と段落の続き方を考えて、接続する語句や指示語を用いるなど工夫しながら自分の調べた食べ物についてわかりやすく「中」の部分の文章を書いている。	情報カードをもとに、「すがた」「手の加え方」を書けるようにする。